

登録コード:MH310300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	臨床能力演習【20M以降】 Objective Structured Clinical Examination			
担当教員	百瀬 公人 横川 吉晴・青木 薫・西澤 公美・小宅 一彰・北川 孝			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/ 3 年 後期 月曜・ 3 時限 月曜・ 4 時限			
単位数、講義室	2 単位	保健学科運動療法実習室 保健学科 1 3 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標		
	MH20カリ・保健			
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	臨床実習に向けて、医療現場で必要とされる最低限の知識および接遇を身に付ける		
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	模擬患者を対象に要求された技術を行うことができ、CBTにおいて必要な知識を示すことができる。		
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	理学療法においてエビデンスの判明している部分とまだわかっていない部分について説明することができる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業は、2年次の理学療法評価法、臨床推論、疾患別の理学療法などの授業で学習した評価・治療に関する知識と技術に基づいて、実際の臨床現場で求められる医療面接、理学療法評価法、理学療法治療法、動作支援に関する実践的な態度や技能について学ぶ。また、本授業は3年次の臨床基礎実習、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を生かして講義・演習を行います。 理学療法学生が臨床実習を行うにあたり違法性の阻却が必要であり、その一つに学生に一定水準の知識と技能があることが要求されています。本授業における評価はこのことに基づいて行っております。従いまして、この科目に合格できないと、臨床J基礎実習及び臨床実習・・・を受講することができません。			
授業計画	第1回（ 9月28日 ） pre-OSCE peer practice：オリエンテーション（百瀬）、医療面接（ 青木 ） 第2回（10月 5日 ） 演習に関する質問（ 青木 ） 第3回（10月14日 ） pre-OSCE peer practice：ストレッチ（小宅）、バイタルサイン（ 北川 ） 第4回（10月19日 ） 演習に関する質問（小宅、北川） 第5回（10月26日 ） pre-OSCE peer practice：随意性（ 横川 ）、運動発達（ 西澤 ） 第6回（11月 2日 ） 演習に関する質問（横川、西澤） 第7回（11月 9日 ） pre-OSCE peer practice：動作支援（百瀬）、全体ガイダンス（百瀬） 第8回（11月16日 ） 演習に関する質問（百瀬） 第9回（11月26日 ） OSCE： 医療面接、 バイタルサイン 第10回（11月30日 ） OSCE： ストレッチ、 随意性 第11回（12月 7日 ） OSCEのための準備練習（個別練習） 第12回（12月14日 ） OSCE： 運動発達、 動作支援 第13回（12月21日 ） 全体フィードバック・ステーション毎の復習 第14回（ 1月 4日 ） CBT 第15回（ 1月18日 ） 全体復習 第16回（ 1月25日 ） CBT、授業アンケート *OSCEの順番が変更する場合がある			
授業の進め方	各ステーションの概要を担当教員から説明し、その内容について「pre-OSCE peer practice」を通して、学生同士が模擬患者をしながら練習を行っていきます。翌週には、練習を通して出てきた問題点について担当教員に質問を行うことで、臨床における具体的な対応について学習します。 全ステーションで説明・質問を行った後、個別練習の期間に各自で十分に練習を行い、「客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination, OSCE）」を実施します。OSCEでは、具体的な項目別の臨床実践能力の試験とフィードバックを通して、基本的な臨床実践能力の修得を図ります。			
テキスト，教材，参考書	各ステーションが指定するものを使用する			
成績評価の方法	計6ステーションの客観的臨床能力試験（OSCE）の結果およびCBTの成績で総合判断とします。			
成績評価の基準	OSCEおよびCBTのそれぞれにおいて6割を超えたものを合格とします。合格者の成績判定はOSCEとCBTの結果を平均し、下記の基準で評価を行います。			

成績評価の基準	秀：課題に対する具体的な対応を十分円滑に遂行することができる。（90点以上） 優：課題に対する具体的な対応を概ね円滑に遂行することができる。（80点以上） 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで遂行することができる。（70点以上） 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで遂行することができる。（60点以上）
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には90時間時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 【事前学習について】 各ステーションから課題および演習課題が出され、OSCE本番までに繰り返し練習を行う（4時間×12回） 【事後学習について】 OSCE後にCBTを実施し、実技だけではなく知識と技術が結びついているかを確認する（4時間×3回）
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	医療面接，評価，治療，動作支援の実際を、学生同士で模擬患者となりながら練習し、また、その成果をOSCEを通して確認することによって、基本的な臨床実践能力を高めるように努力してください。 質問・相談への対応：百瀬 公人 オフィスアワーとメールアドレス： 研究室は南校舎4階です。月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp